

『ビジネスクリエーター研究』創刊にあたって

ビジネスクリエーター研究学会は、立教大学ビジネスクリエーター創出センターを母体に2008年11月に設立されました。ビジネスクリエーター創出センターは、文部科学省のオープン・リサーチ・センター整備事業として「ビジネスクリエーター創出のための基盤整備と教育プログラム形成に関する研究」に取り組み、5年間の研究期間を満了して、多くの研究成果を得ることができました。

この間、長い停滞の時期を脱出した日本経済は、「いざなぎ景気」を超える戦後最長の景気拡大を経験しました。しかし、国民生活は豊かさを感じないまま終焉を迎え、サブプライム・ローンの破綻に端を発した米国の金融危機が追い打ちをかけるように日本経済を奈落の底に落すことになりました。企業の倒産件数や失業者が増え、社会は閉塞感に包まれています。日本企業は、羅針盤のないまま嵐の中の大海原を航海しているような状況にあります。

家計は豊かではないが、物質的な困窮状況にあるわけではなく、将来に不安を抱えたまま消費を控え、企業の投資抑制が経済を委縮させるという悪循環に陥っています。このような状況にあり、日本社会に活気をもたらすのは何か。モノが溢れ、必要なモノはほとんど手に入れているにもかかわらず、豊かさを感じることができない閉塞感。過去の延長線上には、未来を見ることはできません。それは、これまでの社会生活を一変させるような何かを発見し、新しい社会を構築することで、未体験の豊かさを追求しなければならないということです。

我々は、新しい社会を探索し、その実現の方法や仕組みを考えねばなりません。その役割を担う人材（財）、あるいは精神や能力、そうした人材（財）や精神・能力が発揮できる環境について研究する場を設けねばなりません。そのため、ビジネスクリエーター研究をさらに発展させることを意図し、研究拠点のプラットフォームとして当学会を設置し、新しい事業と社会の構想に関する諸研究を行う拠点とすることにしました。

研究大会は本年11月で3回目となりますが、その研究成果はホームページに掲載される研究報告のレジメのみでした。幸い、センターの研究プログラム「ビジネスクリエーターが創るインテリジェントデザイン型企業・組織と人材育成手法の実践

的研究」が文部科学省の「平成 21 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する研究）」に採択されました。この事業は、大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を活かした研究を実施するため、その研究基盤の形成を支援する事業です。当学会は、ビジネススクリエーターに関する特色ある研究拠点を確立するため、文部科学省の財政的な支援を受けて、ここに学会誌『ビジネススクリエーター研究』を創刊することができました。

ところで、我々の学会は「ビジネススクリエーター」という概念的に確立していない言葉を冠しています。企業家や起業家、あるいは事業家や創業者、経営者や管理者、アントレプレナーやアントレプレナーシップ、リーダーやリーダーシップという類似の言葉がありますが、おそらく、それらの中で最も新しい言葉でしょう。新語「ビジネススクリエーター」をもちいる理由は、これまでの言葉がもつ既成概念に縛られないようにするためです。一般的に使われる言葉は、思考を停止させます。研究者や実務家が自由な発想で研究できねば、研究の発展や革新が期待できません。創刊号に執筆された各位の自由な概念形成は、本研究を進化させる第一歩になります。

創刊号では、「ビジネススクリエーターとは何か？—その社会的意義と役割—」という特集を組みました。実務の世界と研究の世界の住人 4 名の論客が、それぞれの立場でビジネススクリエーターを論じています。加えて、2 名の方から自由論題の論文を投稿いただきました。ご執筆いただいた方々に感謝いたします。

最後になりましたが、学会誌の創刊にあたっては、編集委員長の元治恵子氏と副委員長の山中伸彦氏、そして編集委員の諸先生方に改めて謝意を表します。ここに創刊号をお届けできるのも、編集に携わっていただいた方々のおかげです。

我々の学会誌が多少とも社会に貢献できれば幸いです。

2009 年 11 月 15 日

ビジネススクリエーター研究学会

会長 亀川 雅人